

東ジャワ Sepanjang 村における高齢者の日常的なネットワーキング
Daily Networking of Elderly in Sepanjang Village, East Java

ベラ ロサディ (慶應義塾大学 政策・メディア研究科 修士2年)
Bella ROUSADY (Keio University, Graduate School of Media and Governance, 2nd
year Master's student)

本研究は、インドネシア、東ジャワの Sepanjang 村、Krajan 集落をフィールドとした高齢者が築く人間関係を探ることを目的とする。従来の研究において、インドネシアの高齢者の人間関係は家族や親族、RTRW などの地域コミュニティに限定して理解されることが多かったが、論述の性格上それら枠組みの外にある人間関係はあまり触れられてこなかった。本研究ではその枠組みのみならず、高齢者がどのように広範な社会関係を積極的に構築しているかに焦点を当て「見えないネットワーク」を浮かび上がらせる。具体的には、1ヶ月間、対象者の家にホームステイし、つきっきりになり四六時中行動を共にすることで高齢者がどのようにして自身の社会ネットワークを築き、維持し、拡大しているのかを調査する。研究者は調査地で使用されるジャワ語のスピーキングリスニングが可能のため、高齢者の日常生活に直接参加しながら詳細にフィールドノートに記録できる。本研究は、高齢者の社会関係を、家族や親族、RTRW、婦人会、頼母子講などの枠組みにとらわれず、日常生活における微細な相互作用から分析することを目的とする。具体的には、外出中に会う人々とのちょっとした声かけや訪問、誘い合いなど、日々の生活の中で自然に生じる社会的な交流に注目する。このような日常的な行動を通じて、高齢者がどのようにして社会的なつながりを築き、維持しているのかを探る。さらに、高齢者のニーズ-例えば、健康、食事、買い物、娯楽など-が日常生活の中でどの程度の比率を占めているかを調査する。これにより、具体的にどこでこれらのニーズが満たされるのか、誰が関わるのか、そしてそれが村の外で行われることが多いのかどうかを明らかにする。日常的な社会的交流と高齢者のニーズへの対応がどのように交差し、生活全般にどのような影響を与えているかを理解することで、高齢者の社会的な生活の全貌を浮き彫りにする。(782文字)